



## 英国総選挙2010:総選挙関連日程

大方の予想通り、本日ブラウン首相が女王に下院の解散を進言。これを女王が承認するという正式手続きを経た後、総理官邸前で政治記者に対し5月6日投票日の総選挙日程が発表された。

今後の日程は以下の通り。

- 4月6日(火) 下院の解散・総選挙日程発表
- 4月6-9日 議会の残務処理期間(“wash-up” session)
- 4月12日(月) 議会解散

(この後も現閣僚は役職に留まるが、最低限必要な職務遂行のみで、選挙選に関わるような行為は慎むという“purdah”[ベールに包まれた]期間に入る。)

- 4月15日(木) 第1回党首テレビ討論(ITV):テーマは内政
- 4月22日(木) 第2回党首テレビ討論(Sky):テーマは外交
- 4月29日(木) 第3回党首テレビ討論(BBC):テーマは経済
- 5月6日(木) 投票日(大半は即日開票)
- 5月7日(金) 結果発表
- 5月18日(火) 国会召集:議長選出、議員宣誓、首班指名投票
- 5月24日の週 国会開会

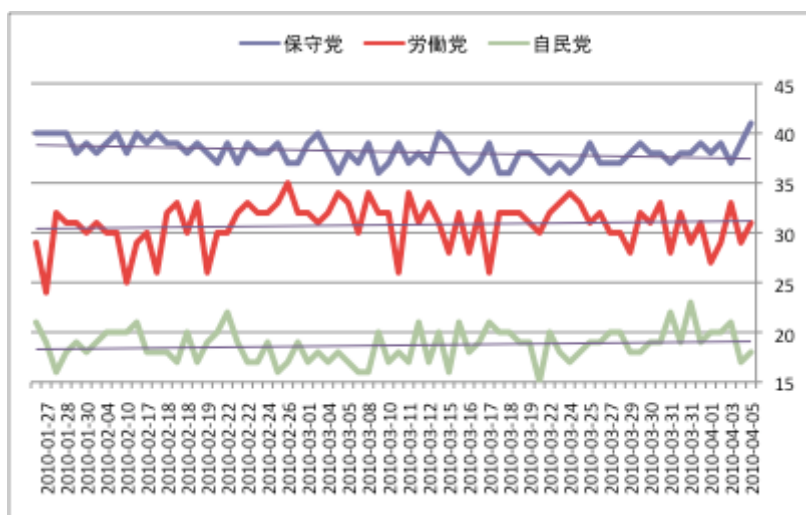
慣例では国会召集日は総選挙の6日後となっているが、今回はどの党も絶対過半数を取れない「ハング・パーラメント(hung parliament)」となる可能性が高いことから、首班指名・組閣へ向けた政党間の駆け引きの期間を考慮して12日間の猶予が設けられることとなった。

世論調査の政党支持率は年初来労働党が保守党との差を縮めてきたが、予算案(バジェット2010)発表来保守党が少し挽回しており、現在保守党と労働党との差は8ポイント程度(最近の世論調査の平均は、保守党38%、労働党30%、自民党20%)。依然として「ハング・パーラメント」になる公算が大きい。浮動票も多く、英国初の試みとなる3党の党首テレビ討論を含めた1カ月の選挙戦如何で結果が左右されると見られている。

今回の選挙の最大の争点は経済政策。景気回復・雇用確保と、財政再建が主たるテーマである。今後1カ月内に発表される経済指標の中で、4月8日: 鉱工業生産指数、21日: 失業率、22日: 公共セクター純借入高(PSBR)、23日: 第1四半期GDP、の発表が注目される。一連の発表で景気回復の足取りが確認できれば現政権党の労働党に有利。悪い数字の場合は29日の党首テレビ討論の場で野党側からの攻撃材料となる。

【政党支持率の推移】

(単位: %)



出所) UK Polling Reportのデータを元にKRA作成

井上 貴子(問合せ: tinoue@komatsuresearch.com)